

# 素 顔 拝 見



次世代医療人育成センター

黒 川 亮

平素より大変お世話になっております。次世代医療人育成センターの黒川亮と申します。駄文で恐縮ですが、お付き合いいただけますと幸いです。

私は新潟の生まれで、日本歯科大学新潟歯学部（現新潟生命歯学部）を卒業後、本学顎顔面口腔外科学分野に大学院生として4年間お世話になり、長期出張の後、大学復帰しています。

出張先は、横浜船員保険病院（神奈川県 現横浜保土谷中央病院、指導医：本学OB 堀本 進先生）、ぬまた歯科口腔外科（群馬県 現沼田クリニック歯科、指導医：本学OB 山中正文先生）、両津病院（佐渡市、指導医：本学OB 猪本正人先生）、会津中央病院（福島県、指導医：宮島 久先生）、新潟中央病院（新潟市、指導医：本学OB 鶴巻 浩先生）で、計5病院・6年間に渡る「超」長期出張でした。

横浜では、口腔外科業務に加え、入院患者の口腔ケアを行っており、その後ライフワークとなっています。一方、病院敷地内の宿舎で生活していたため、深夜や明け方の急患対応が多く、医療従事者としての体力づくりもできました。群馬では、歯科治療の基礎を徹底的に教え込んでいただき、更に両津で、地域医療の実状に柔軟に対応する歯科医療（応用編）を経験させていただきました。この「基礎編」と「応用編」が、今も診療を行う上でのベースとなっています。また、会津中央病院は病床数1,200と大きな病院であり、入院患者の抜歯依頼が多く、有病者歯科との出会いがありました。横浜では体力がつかしましたが、会津では有病者にも立ち向かう精神面での修養ができ

たと思います。そして長期出張の集大成となる、新潟中央病院時代は、学会発表や院内で行われる口腔ケアの講師等、伝える立場として、多くの場数を踏ませていただきました。

大学復帰後、はじめの3年間は顎顔面口腔外科医員の所属、3年前より次世代医療人育成センターの特任助教として採用となり、現在に至ります。業務内容は①口腔外科、②医療連携口腔管理チーム（周術期口腔機能管理やMRONJ予防等の有病者歯科）、③次世代医療人育成センター（医学部や他大学への口腔ケア教育）が3本柱となりました。

ところで、次世代医療人育成センターとは聞きなれない部署名かも知れません。本センターは、「未来医療研究人材養成拠点形成事業（文科省）」から設置された部署で、超高齢社会における地域医療を担う人材（すなわち次世代医療人）の養成に力を注いでいます。事業のキーワードに「（誤嚥性肺炎予防目的の）口腔ケア」が挙げられていることから、現在のポストをいただくことができました。また、「多職種連携」も重要なキーワードで、年2回、医学部（医学科・保健学科）、新潟医療福祉大学、新潟薬科大学と本学歯学部、口腔生命福祉学科等の学生を集め、ワークショップとフィールドワークを行っています。先に述べた出張先での醍醐味は、多（他）職種との連携にもあり、診療上の利便性や安心感とともに、スタッフ間の仲間意識や楽しさがあったことが忘れられません。学生さんには、その点についても伝えていきたいと思っています。

最後に趣味について。この歳（40歳）にしてプロ野球好きで、パファローズ、ベイスターズを中心に年数試合観戦に行っています。実は野球歴が長いのですが、選手として全く芽がでず、最近、応援業には才があることに気づきました。横浜スタジアムで1人応援していたところ、大洋ホエールズの応援団員だったという見知らぬ方に声量を

褒められたことが私の最も輝かしい球歴です(笑)。また、妻(本学OG旧姓・青木久絵)が「新潟コアラーズ」という女子ソフトボールチームで選手をしており、その手伝いなんかもしています。選手、マネージャー募集中ですので興味のある方はお声掛けください。

【追伸】ワークショップとフィールドワークも随時参加学生募集中ですので併せてよろしくお願ひします!!



高度口腔機能教育研究センター  
助教

川崎 勝 盛

こんにちは。2015年4月より高度口腔機能教育研究センターの助教を拝命いたしました川崎勝盛です。素顔拝見ということで、この場をお借りして、ご挨拶をかねて略歴と自己紹介などいたしたいと思ひます。私は新潟県新津市(現新潟市秋葉区)出身で、高校は新津高校に通っていました。小中高と柔道をやっていましたが、今は見る影もなく、誰に言っても信じてもらえませんが(苦笑)。その後、新潟大学歯学部へ進学し、卒業後は小児歯科の大学院へと進学しました。大学院を卒業後は約2年ほど小児歯科の医員として働かせていただきました。2010年に幸いなことに留学の機会をいただき、英国ロンドンのKing's college、Paul Sharpe 教授のCraniofacial Development & Stem Cell Biologyで研究留学をさせていただきました。Paul Sharpe 教授は、先日「アルツハイマー治療薬『タイドグルーシブ(Tideglusib)』を使って、象牙質が再生した」という発表をし、日本でもニュースに取り上げられたので、ご存知の方もいらっしゃるかと思ひます。残念ながら、私が携わっていたのは別なプロジェクトでしたが…。留学先での研究は、小児歯科での経験を活かし、過剰歯の発生をメインに遺伝子改変マウスを用いての研究をしておりました

が、この辺りの詳細は歯学部ニュースの125号で「留学報告」の中で書かせていただきましたので、そちらを読んでいただければ幸いです。

帰国後、ご縁がありまして、英国でお世話になっていた大峽淳先生が、新潟大学歯学部の口腔解剖学講座の准教授に就任されまして、英国で行っていた研究をそのまま継続して行っております。現在では、大峽先生が同講座の教授に就任され、また研究棟も新しくなり、気分も新たに研究に勤しんでいます。新しい研究棟は実験機材も充実しており、以前より一層できることも増え、毎日新しい知見が得られるのを楽しんでいます。まだ見たことない方がいらっしゃれば、是非一度見学にいらっしゃって下さい。

さて、助教に就任後、今までの研究一辺倒の生活から変わった点と言えば、やはり教育に携わるようになったことでしょうか。同じ講座で研究している大学院生の指導や、学部の2、3年生を対象にした講義など、教育の現場に立つようになると、「何かを教える」と言うことの難しさを痛感します。人に何を教える以上、自分はより深くその事柄について理解しておく必要がありますし、自分が持っている知識を全力で教えても、受け取り手が十全てを吸収してくれるとは限らないのが教育の難しいところです。先日は、「学生参加型の講義形式」を目指し、「Turnig point」と言うPowerPointを利用した投票システムがあることを全学のFDから教えてもらい、早速講義に取り入れてみました。当日教えた内容について、講義の後半にミニテスト形式の選択問題を、全員参加で答えさせる、と言う試みを行いました。学生さんにとっては初めての事だったので、若干戸惑っていたようですが、「知識の定着」と言う面では有用だったように思われます。しかし、今の真面目な学生さん達と触れ合っていると、自分が学生だった頃、いかに不真面目だったかと言うのを思い出してしまって、赤面することもしばしば…。

趣味は、これといって無いのですが、今3歳の息子がおり、毎日毎日少しずつ成長する姿が微笑ましく、日々の癒しになっています。本当に微笑ましいエピソードのストックが山ほどあるのです

が、文字数の関係で書ききれないので、割愛させていただきます（親馬鹿）。

今後とも教授をはじめ諸先生方にご指導ご協力いただき、研鑽を重ね、自分の得たものを後輩へ伝えていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。



新潟大学医歯学総合病院  
矯正科助教

高橋 功次郎

はじめまして。私はこの度、平成28年4月より新潟大学医歯学総合病院矯正科助教を拝命いたしました高橋 功次郎（たかはし こうじろう）と申します。文才の無い私には自由記載ほど難しいものはなく不安でいっぱいですが徒然なるままに書かせていただきます。それでは生い立ちからその時々のお出来事を振り返っていきこうと思います。私は昭和53年4月に福島県郡山市で生を受けました。この頃我が国では、池袋に超高層ビルであるサンシャイン60がオープンし、原宿では竹の子族という人たちが踊りまくっていたような時代であったそうです。また、私が生後約2か月で被災した宮城県沖地震が起きた年でもあります。地震があった日は父が仕事で不在であり、当時の住まいで母と兄は2人で身を寄せ合って倒れてくる家具から私を守ってくれたそうです。これほどまでに大きな地震は体験したことがなく、後に母は地球全体が揺れたと感じたそうです。その後私はすくすくと成長し、父の仕事の都合で幼稚園の途中から宮城県に移り住むこととなりました。幼少期の私はとにかく昆虫が大好きで、将来はファーブルになる（当時ファーブルは職業名だと思っていました）と息巻いていたそうです。しかし、コオロギとゴキブリを間違えて母親に得意げに講釈を垂れ、怒られ、また家族全員が虫嫌いであったことからこの夢は叶いませんでした。小学校低学年時になると強い男になって大切なものを守るよ

うにと、父により半ば強制的に少林寺拳法の道場の門を叩き入門させられました。裸足に道着一丁で真冬の田んぼ周りをランニングし、その後数時間の稽古がとても辛かった思い出しかありません。今考えても、当時の私は何に備えて鍛錬していたか不明です。小学校に上がるとバスケットボールのスポーツ少年団に入り週7日練習で汗を流し、膝を壊しました。しかし、我慢強く膝の治療を続けレギュラーポジションを獲得し、晴れてデビュー戦の日、試合開始のホイッスルの直後、ジャンプボールは私の手に吸い込まれ、風のように早くゴールまで到達し、何万回も練習したレイアップシュートをファーストチャンスでたたき込みました。自軍のゴールに。会場は静まり返りました。そうです。オウンゴールです。このエピソードからわかるように私は人前が苦手で極度のあがり症だったので。その後は中学校、高校は仙台市に移り住み、福島県郡山市の奥羽大学歯学部に入學し、歯科医師を志し、勉強に励みました。大学時代はあがり症の克服というわけではないのですが、地元郡山市で活動している劇団に所属し、舞台公演を重ねました。学生生活6年間はあっという間に経過して無事国家試験を突破し、様々な縁で研修医から新潟大学で勉強させていただくこととなりました。また研修修了後は矯正科の大学院生として入局いたしました。学位研究は当科の齋藤教授、口腔生理学分野の山村教授、北川准教授の元で基礎研究に励みました。マウスとラットの違いもわからない状態から根気強く導いてくださった諸先生方には感謝しかありません。大学院卒業後に臨床研究もやってみようという気持ちにさせてくれたのは4年間の基礎研究があったからこそだと今でも思っております。助教となった現在は、研究、教育、臨床に向き合い、まだまだ周りの先生方に助けてもらいっぱなしの毎日ですが、やりがいを感じております。

最後に、最近痛感させられることは、当たり前のことですが人間は1人では何も成すことができないということ。一緒に仕事をしてもらえる人がいて初めて何かを残すことができるということを忘れずに、この職務を全うしたいと思います。乱文申し訳ありませんでした。